

九州産業考古学会報

第8号 2007年3月31日発行 発行元：九州産業考古学会

旧伊藤伝右工門邸の現状と今後



深町純亮（「旧伊藤邸の保存を願う会」代表世話人）

筑 豊の石炭王といわれた伊藤伝右工門（1860 ~ 1947）の旧邸が飯塚市幸袋にある。金にあかして粋を凝らした近代和風建築であり、大正・昭和を代表する女流歌人柳原白蓮が十年間起居したという文学史的な貴重さも重なる大邸宅である。本邸は長年会社倶楽部として使われていたが、老朽化もあって所有者が持ち倦ね、その存続が危殆に瀕していた。このことを伝え聞いた市内の有志は「旧伊藤邸の保存を願う会」を結成し、直ちに署名活動や募金運動など具体的行動を開始した。賛同する声は市内外に満ちて大きな盛り上がり

を見せ、様々な紆余曲折を経たあと、ついに2005年11月には、飯塚市による同邸の買い上げが決断されるに至った。この経緯はすでに本会報でも御報告した通りである。

昨年には、産業考古学会が本邸を「推薦産業遺産」に認定し、九州産業考古学会木元会長が飯塚市長に認定証を手交された。学会が30年の歩みの中で認定した産業遺産は全国で僅か70余件で、その1つに入れられたのであるから、本邸の価値が一段と輝きを増したこととなり、市長、市民の喜びも格別であった。産業考古学会には心から御礼申し上げたい。

その後、市では全面的な補修工事開始に先立って、2006年7月には2日間の邸内見学開放を行なったが、延べ5600人が押しかける大混雑となり、またJR九州が日帰りの見学バスツアーを企画したところ忽ち満杯となり、2台目を追加するという事もあった。

本年2月下旬、飯塚では恒例の「筑前いいづか雛（ひいな）のまつり」に因んで、工事中の邸宅の一部を公開したが、ここでも十日間で1万3000人の見学者があった。今や全国的な白蓮ブームと相俟って本邸は飯塚市最大の観光ポイントとなっている。伝右工門・白蓮ゆかりの飯塚・宝珠山・日田・荒尾・玉名を結ぶ「大正浪漫、白蓮の路を歩く」ツアー企画や、本邸と嘉穂劇場を結ぶ屋形船を遠賀川に運航させる計画も進められている。

筑豊のヤマの灯が消えて40年になるが、学園文化都市、情報産業都市を標榜する我が飯塚の市民パワーの大きさを改めて認識するとともに、今後の町づくりの一大拠点として旧伊藤邸の存分の活用をはかっていきたいと考えているところである。なお伊藤伝右工門の事績については拙著『伊藤伝右工門物語』旧伊藤邸の保存を願う会、2007年、旧伊藤邸については藤森照信『歴史遺産：日本の洋館』第2巻、講談社、2002年、を見て頂けると有り難い。

【短信】

針尾送信所無線塔を実見して

木元富夫（小会会長）

針尾島（はりおじま）といえば、軍事遺跡に詳しい人なら、佐世保の近くにあつて無線塔の残っているところと分かるだろうが、一般にはまず馴染みのない地名であろう。ましてや通りすがりの旅人には、そもそもこれが「島」とは思えないのである。よく知られた観光地のハウステンボスはこの島内にあつて、実は九州本土から離れているのだが、大村線の駅前から橋を渡って入場する観光客は、とてもそうは思えないことだろう。

昨（2006）秋、私は佐世保市に出張したが、仕事は昼過ぎに終わったので、この際、かねてから気になっていた無線塔を見に行くことにした（読んでいた新聞連載小説、早坂暁「花へんろ」の舞台がちょうど海軍兵学校針尾分校に差し掛かっていたということもあった）。駅の観光案内所で聞くとバスで50分、そこから徒歩で15分ということなので、バスの便数が少なくても時間は十分にあるだろう。

バスセンターから西海橋方面行きに乗って高畑で下車し、塔を目指して炎天下を歩いたが、なかなか塔が近づいてこない。とても15分の距離とは思われず、これは車で15分のことではないかと思われたことであつた。行っても柵があつて近よれませんよ、と言われたが、これもそんなことはなく、蜜柑畑や雑木林の中に放置されたままであつた（近づくのにはかなり苦労した）。「佐世保観光ガイドマップ」に「観光地・公園等」のひとつとして「針尾無線塔」が地図中に載せられているが、この扱いは再考すべきではなからうか。

さて無線塔の概要や偉容は、別に下記文献を見て頂くことにして、ここでは強い印

象を受けた一点に絞って感想を述べたい。それは80年以上前に建設された、直径12m、高さ135mの鉄筋コンクリート作りの塔（3本）が殆んど傷んでおらず、亀裂も見えなかったことである。地肌も滑らかで、せいぜい20年も前に建てられたかと思われるほどであつた。同じ大日本帝国海軍が建設した志免炭鉱の竪坑櫓（1945年完成）と比べて余りにも対照的である。

前者が第一次世界大戦末期の昂揚期で、後者が太平洋戦争末期の衰退期の建造ということに起因するのかもしれないが、それにしても違いがありすぎる。学界には、コンクリート建造物は時代が古いほど優秀という話があるらしいが、無線塔と竪坑櫓はその好例ということであろうか。

《参考文献》『長崎県の近代化遺産』長崎県教育委員会、1998年、『近代化遺産ろまん紀行西日本編』中央公論新社、2003年、『依佐美送信所調査報告書』中部産業遺産研究会、1999年。後者は、最初の欧州向け無線通信設備として1928年、愛知県刈谷市に建設された、高さ250mの鉄塔「依佐美の無線塔」の多面的研究である。



【お知らせ】

文献紹介

九州の産業遺産に関連して、ここ1年ほどの間に刊行されたもので、あまり知られていないような文献を紹介する。（KT）

『事例集2、地域資源を活用した産業観光モデル事例20』日本観光協会、2005年、『事例集3、地域資源を活用した産業観光モデル事例20』同上、2006年。保存だけでなく活

用まで考えると、産業観光が視野に入ってくるが、全国各地の試みが集められていてヒントが得られる。

『ボタ山のあるぼくの町 山口勲写真集』海鳥社、2006年。日本炭鉱高松炭坑の記録。ヤマで生活した者の眼でなければ切り取ることができない写真にあふれている。

『写真が語る常磐炭田の歴史』常磐炭田史研究会、2006年。本書は九州ではないが、多数の写真が系統的に集められ、炭鉱生活の種々相を知ることができる。

松尾宗次『北九州に生きた人々 ものづくりの心を未来へ』北九州都市協会、2006年。月刊誌『ひろば北九州』に連載された記事を集成したもので、北九州の産業に関連する企業家や技術者の活動を、全24話にわたって取り上げている。

『遠賀川 もっと知りたい遠賀川』遠賀川流域住民の会、2006年。遠賀地域の人々に読んでもらうことを第一に、大きな活字で書かれている。文章はやさしいが正確で、多くの図版やカラー写真と相俟って好個の参考書となっている。

深町純亮『伊藤伝右工門物語』旧伊藤邸の保存を願う会、2007年。筑豊を愛する著者の熱意がひしひしと伝わってくる。



2007年度産業考古学会全国大会北九州大会
(九州産業考古学会主催イベント)

期日：2007年11月10日(土)・11日(日)
会場：九州国際大学 KIU ホール

1日目(11/10)
研究発表(9:00～12:00)
記念講演(13:00～) 中岡哲郎「日本における技術移転と九州産業遺産」(仮題)
シンポジウム(14:40～) 「九州の近代化産業遺産群」コーディネーター：伊東孝

パネリスト：長谷川雅康、幸田亮一、片岡力、清水憲一

「北九州の近代化遺産現状報告」：市原猛志
懇親会(18:00～) 料亭金鍋

2日目(11/11).....見学場所は未確定
エクスカージョン(終日)

a.赤煉瓦コース 門司港レトロと門司赤煉瓦ブレイス等(赤煉瓦ネットワークと共催)

b.製鐵所コース 産業技術保存継承センター・河内貯水池・本事務所等

実行委員長：清水憲一(九州国際大学)
実行委員：青地学(小会事務局長)、市原猛志(九州大学大学院人間環境学府博士課程)、松田寛(小会前事務局長)、砂場一明(元株式会社門宣)、尾崎徹也(ホシデン九州)
オブザーバー：竹中康二(NPO 法人門司赤煉瓦倶楽部事務局長)
顧問：木元富夫(九州産業大学・小会会長)

皆様のご来訪を心よりお待ちしております。
お問い合わせは小会事務局まで。



会報原稿募集について

『九州産業考古学会報』は、発刊以来原稿及び九州各地の情報不足に悩まされています。会員からの積極的な投稿をお願いします。募集している原稿は下記の通りです。

・【研究発表】.....産業考古学、またはそれに関連する学術的報告。B5版2枚以上4枚以内(1400字以上2800字以内を目安、図表を入れる場合は図の大きさにより文字数の調整をご考慮願います)。

・【お知らせ】.....学会やイベント告知、産業考古学・産業遺産に関連したお知らせ

など。700 字以内。書評やお薦めのグッズ紹介を掲載する【短信】への投稿もお待ちしています。
紙面の都合上、文面レイアウトに関して

編集側で変更を施す場合があります。詳しくは学会サイトの投稿規定を参照ください。投稿に関する問合せは学会事務局まで。

会報第8号・目次

【巻頭言】	【お知らせ】
旧伊藤伝右工門邸の現状と今後深町純亮 1	書籍紹介 3 2007 年度産業考古学会全国大会北九州開催について 3 会報原稿募集について..... 4 今後の予定 4
【短信】	
針尾送信所無線塔を実見して木元富夫 2	

(お知らせ内の各イベントは、頁末の当会ウェブサイトからもご確認ください)

今後の予定
当会の今後の予定は以下の通りです。

月・日	活動内容
4月20日 ~	折尾駅の歴史的価値を考える 会写真展(折尾駅3番ホーム)
5月	産業考古学会総会(川崎市)
6月	
7月	会報第9号発行

【予定は都合により変更する事があります】
< 編集後記 >

会費納入・ご寄付のお願い
当会は事務局体制や会報を充実させるため、会則により年会費を個人会員2000円、団体会員は5000円徴収させて頂く事になりました。産業考古学発展のため、非会員へも送付する方針は維持しますが、当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付についてどうぞ宜しくお願いいたします。
会費・寄付先口座【郵便口座に変更！】
17430-88882241
キュウシュウサンギョウコウコガツカイ

『北九州の近代化遺産』刊行以降、九州に遺る遺産の価値を見直し、紹介していこうという動きが散見されている。本号では採りあげられなかったが、3月11日に長崎で行われた「九州伝承遺産ネットワークシンポジウム」はじめ、私たちの知らない所で実に様々なイベントが行われている。そして今回福岡でも遺産紹介の書籍を編纂する会議が小会主催で開かれた。九州の地から、積極的な情報発信を行っていくことで、産業考古学全体の機運を盛り上げていきたい。(市原)

九州産業考古学会事務局 〒 807-0022 福岡県遠賀郡水巻町頃末北4丁目 11-7-204 青地学 気付
TEL&FAX : 093-202-5054 E-mail : aochimanabu@yahoo.co.jp
URL : http://f17.aaa.livedoor.jp/~heritage/